

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年10月12日

【四半期会計期間】 第105期第3四半期(自 平成29年6月1日 至 平成29年8月31日)

【会社名】 オーエスジー株式会社

【英訳名】 OSG Corporation

【代表者の役職氏名】 取締役社長 石川 則 男

【本店の所在の場所】 愛知県豊川市本野ヶ原三丁目22番地

【電話番号】 (0533)82 1111(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 園 部 幸 司

【最寄りの連絡場所】 愛知県豊川市本野ヶ原三丁目22番地

【電話番号】 (0533)82 1111(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 園 部 幸 司

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第104期 第3四半期 連結累計期間	第105期 第3四半期 連結累計期間	第104期
会計期間	自 平成27年12月1日 至 平成28年8月31日	自 平成28年12月1日 至 平成29年8月31日	自 平成27年12月1日 至 平成28年11月30日
売上高 (百万円)	78,652	88,281	105,561
経常利益 (百万円)	13,845	14,080	17,813
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	8,448	9,315	10,134
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,494	12,242	3,697
純資産額 (百万円)	96,868	113,544	103,059
総資産額 (百万円)	148,094	162,205	156,081
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	91.70	103.28	110.59
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	83.48	93.98	100.62
自己資本比率 (%)	58.5	62.7	59.1

回次	第104期 第3四半期 連結会計期間	第105期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成28年6月1日 至 平成28年8月31日	自 平成29年6月1日 至 平成29年8月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	29.22	34.12

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、地政学リスク等懸念材料もあるものの全体としては緩やかな回復基調となりました。米国は新政権の政策をめぐる不透明感はあるものの、個人消費を中心に総じて堅調に推移しました。欧州はイギリス、フランス、ドイツ等主要国での消費を中心に緩やかな回復傾向を維持しました。中国も堅調な個人消費、輸出を中心に持ち直しの動きが続き、その他アジアの新興国は以前の高い伸びと比べて鈍化したものの一定の成長を持続しました。国内においては、個人消費の伸び悩みはあるものの、自動車販売、生産、輸出、投資に支えられ拡大を維持しました。

当社グループにおいては、引き続き販売網や物流拠点の拡充を図るとともに、超硬製品の生産能力の増強及び主力のタップ製造の自動化に努めております。日本及び欧州での需要は引き続き堅調で中国も回復基調が持続し、主要ユーザーである自動車関連産業向け及び航空機関連産業向け需要はともに堅調に推移しました。製品別売上では主力のタップ、超硬ドリル、超硬エンドミル、ハイスドリル等製品全般に渡って増加しました。また海外売上高比率はM&Aによる欧州・アフリカセグメントでの外部売上高増加等により58.0%（前年同四半期連結累計期間（以下、「前年同期」という。）は55.6%）と増加しました。営業利益は、韓国での労務費の一時金計上及び前年同期においては為替変動に起因してたな卸未実現利益消去額が減少していた影響もあり前年同期と比較して減少しました。

以上の結果、売上高は882億8千1百万円（前年同期比12.2%増）、営業利益は139億6千8百万円（前年同期比3.4%減）、経常利益は140億8千万円（前年同期比1.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は93億1千5百万円（前年同期比10.3%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

日本

売上高は516億6千4百万円（前年同期比6.4%増）、営業利益は77億7千2百万円（前年同期比8.7%増）となりました。

国内では、主要ユーザーである自動車関連産業向けを中心に需要は堅調に推移しました。輸出需要も中国の回復を中心に総じて堅調となりました。主力のタップ、超硬ドリル、超硬エンドミル及び転造工具の売上が増加し前年同期と比較して増収増益となりました。

米州

売上高は159億5千2百万円（前年同期比6.9%増）、営業利益は22億5千2百万円（前年同期比9.1%増）となりました。

主要市場の北米では、航空機関連産業向け需要は堅調に推移しましたが、自動車関連産業向けは伸び悩みました。メキシコでは自動車関連産業向けを中心に市況は好調に推移しました。ブラジルでは国内需要は回復基調が継続しました。米州セグメント全体では、主力のタップ及び超硬ドリルの売上が増加したことにより、売上高、営業利益ともに前年同期と比較して増加しました。

欧州・アフリカ

売上高は132億6千8百万円（前年同期比44.2%増）、営業利益は8億9千3百万円（前年同期比0.1%増）となりました。

欧州・アフリカでは、自動車、航空機関連産業向けが好調で業績は堅調に推移しました。相対的にシェアの低い当地域では営業力の強化に注力しております。既存市場での新製品の拡販、航空機関連産業向けの販売力の強化等によりシェア向上を図っております。主力のタップに加えて超硬ドリル及び超硬エンドミル、更にM&Aによるハイスドリルの売上が増加したことにより前年同期と比較して増収となりましたが、のれん償却の増加で営業利益は横ばいとなりました。なお、当連結会計年度期首より南アフリカ、スイス、アイルランドに所在する子会社4社を新たに連結子会社として加え、販売力の更なる強化をしております。

アジア

売上高は232億1千万円（前年同期比13.1%増）、営業利益は34億2千7百万円（前年同期比8.4%減）となりました。

中国では自動車関連産業向けを中心に市況は好調に推移しました。韓国では自動車関連産業、IT関連産業ともに市況は停滞気味となりましたが前年同期比較では増収となりました。新興国等その他のアジア地域では大手ユーザー開拓が進み好調に推移しました。アジアセグメント全体では、主力のタップに加えて超硬ドリルの売上が増加したことにより前年同期と比較して増収となりましたが、韓国での労務費の一時金計上等の影響により営業利益は減少しました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、受取手形及び売掛金、商品及び製品、建物及び構築物（純額）等が増加したことにより、前連結会計年度末（以下、「前期末」という）と比較して61億2千4百万円増加し、1,622億5百万円となりました。

一方、負債は短期借入金、転換社債型新株予約権付社債等が減少したことにより、前期末と比較して43億6千1百万円減少し、486億6千万円となりました。

また、純資産は利益剰余金、為替換算調整勘定の増加及び自己株式の減少等により、前期末と比較して104億8千5百万円増加し、1,135億4千4百万円となりました。この結果、自己資本比率は62.7%（前期末は59.1%）となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は12億1千7百万円です。

なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成29年8月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年10月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	95,955,226	95,955,226	東京証券取引所 (市場第一部) 名古屋証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	95,955,226	95,955,226		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年6月1日～ 平成29年8月31日		95,955,226		10,404		12,051

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成29年5月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 5,873,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 89,969,600	899,696	
単元未満株式	普通株式 111,826		
発行済株式総数	95,955,226		
総株主の議決権		899,696	

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が3,600株(議決権の数36個)含まれております。

【自己株式等】

平成29年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) オーエスジー(株)	愛知県豊川市本野ヶ原 三丁目22番地	5,873,800		5,873,800	6.12
計		5,873,800		5,873,800	6.12

(注) 当第3四半期会計期間において、転換社債型新株予約権付社債の権利行使に伴い、自己株式を処分したこと等により、当第3四半期会計期間末日現在の自己株式数は4,325,652株、発行済株式総数に対する所有株式数の割合は4.51%となっております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成29年6月1日から平成29年8月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成28年12月1日から平成29年8月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,003	17,676
受取手形及び売掛金	20,758	22,839
有価証券	0	0
商品及び製品	20,978	22,808
仕掛品	4,879	5,568
原材料及び貯蔵品	5,834	6,000
その他	4,906	4,258
貸倒引当金	191	265
流動資産合計	75,168	78,885
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	18,588	19,857
機械装置及び運搬具（純額）	28,877	29,586
土地	14,830	14,873
その他（純額）	4,098	4,277
有形固定資産合計	66,395	68,595
無形固定資産		
のれん	2,658	3,601
その他	829	798
無形固定資産合計	3,488	4,399
投資その他の資産		
投資有価証券	6,633	7,270
その他	4,848	3,472
貸倒引当金	452	418
投資その他の資産合計	11,028	10,324
固定資産合計	80,912	83,319
資産合計	156,081	162,205
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,618	4,879
短期借入金	8,000	6,689
1年内返済予定の長期借入金	491	406
未払法人税等	1,436	2,335
賞与引当金	470	1,667
役員賞与引当金	454	325
その他	10,000	6,303
流動負債合計	25,474	22,607

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年8月31日)
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	14,850	12,260
長期借入金	10,163	11,016
役員退職慰労引当金	108	52
退職給付に係る負債	280	542
その他	2,145	2,182
固定負債合計	27,547	26,053
負債合計	53,021	48,660
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,404	10,404
資本剰余金	12,090	11,965
利益剰余金	81,840	86,432
自己株式	10,967	8,039
株主資本合計	93,368	100,763
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,267	2,782
繰延ヘッジ損益	0	1
為替換算調整勘定	3,419	1,905
その他の包括利益累計額合計	1,152	875
新株予約権	13	13
非支配株主持分	10,829	11,892
純資産合計	103,059	113,544
負債純資産合計	156,081	162,205

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年12月1日 至平成28年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年12月1日 至平成29年8月31日)
売上高	78,652	88,281
売上原価	43,496	51,219
売上総利益	35,156	37,062
販売費及び一般管理費	20,689	23,093
営業利益	14,467	13,968
営業外収益		
受取利息	133	124
受取配当金	120	99
為替差益	-	219
その他	562	541
営業外収益合計	815	985
営業外費用		
支払利息	94	91
売上割引	497	531
為替差損	609	-
その他	235	249
営業外費用合計	1,437	872
経常利益	13,845	14,080
特別利益		
固定資産売却益	-	315
特別利益合計	-	315
特別損失		
のれん償却額	-	266
特別損失合計	-	266
税金等調整前四半期純利益	13,845	14,129
法人税、住民税及び事業税	4,194	4,733
法人税等調整額	297	526
法人税等合計	4,491	4,207
四半期純利益	9,353	9,921
非支配株主に帰属する四半期純利益	905	606
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,448	9,315

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年12月1日 至平成28年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年12月1日 至平成29年8月31日)
四半期純利益	9,353	9,921
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	931	519
繰延ヘッジ損益	35	0
為替換算調整勘定	10,934	1,793
持分法適用会社に対する持分相当額	17	7
その他の包括利益合計	11,847	2,321
四半期包括利益	2,494	12,242
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,012	11,360
非支配株主に係る四半期包括利益	481	881

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年12月1日 至 平成29年8月31日)	
(連結の範囲の重要な変更) 第1四半期連結会計期間より、株式会社クリエイトツール等6社は重要性が増したため連結の範囲に含めております。 また第1四半期連結会計期間より、Vischer & Bolli AGの株式を取得したことにより、連結の範囲に含めております。	

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年12月1日 至 平成29年8月31日)	
税金費用の計算	一部の連結子会社は、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年12月1日 至 平成29年8月31日)	
(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用) 「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。	

(四半期連結貸借対照表関係)

受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成28年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年8月31日)
受取手形裏書譲渡高	31百万円	43百万円

(四半期連結損益計算書関係)

のれん償却額

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年12月1日 至 平成28年8月31日)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年12月1日 至 平成29年8月31日)

「連結財務諸表における資本連結手続に関する実務指針」(日本公認会計士協会 最終改正平成26年11月28日 会計制度委員会報告第7号)第32項の規定に基づき、のれんを償却したものであります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれんの償却額及び負ののれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年12月1日 至 平成28年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年12月1日 至 平成29年8月31日)
減価償却費	5,763百万円	6,322百万円
のれんの償却額	231百万円	720百万円
負ののれんの償却額	13百万円	13百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年12月1日 至 平成28年8月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年2月20日 定時株主総会	普通株式	1,900	20	平成27年11月30日	平成28年2月22日	利益剰余金
平成28年7月7日 取締役会	普通株式	1,986	22	平成28年5月31日	平成28年7月25日	利益剰余金

2 株主資本の著しい変動

当社は、平成28年1月20日及び平成28年3月3日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき自己株式を取得すること及びその方法について決議し、当該決議に基づき自己株式を取得いたしました。これを主な要因として、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が9,860百万円増加しております。

なお、当該決議に基づく、自己株式の取得について、平成28年6月6日をもって終了しております。

また、第1四半期連結会計期間より、DESGRANGES OUTILS COUPANTS S.A.等5社を重要性が増したため連結の範囲に含めたこと及び従来連結子会社であった上海富点五金工具有限公司について出資持分を一部売却したことにより、持分比率が低下したため連結の範囲から除外した結果、期首の利益剰余金が125百万円減少しております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年12月1日 至 平成29年8月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年2月18日 定時株主総会	普通株式	2,521	28	平成28年11月30日	平成29年2月20日	利益剰余金
平成29年7月12日 取締役会	普通株式	1,891	21	平成29年5月31日	平成29年7月31日	利益剰余金

2 株主資本の著しい変動

当第3四半期連結累計期間において、転換社債型新株予約権付社債の権利行使に伴い、自己株式を処分しております。この結果、自己株式が2,935百万円、資本剰余金が38百万円、利益剰余金が306百万円それぞれ減少しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年12月1日 至 平成28年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	日本	米州	欧州・ アフリカ	アジア	計		
売上高							
外部顧客への売上高	35,642	14,802	9,169	19,038	78,652		78,652
セグメント間の内部 売上高又は振替高	12,903	115	31	1,491	14,541	14,541	
計	48,546	14,917	9,200	20,530	93,194	14,541	78,652
セグメント利益	7,146	2,064	892	3,741	13,845	621	14,467

(注)1 調整額は、セグメント間取引消去によるものです。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年12月1日 至 平成29年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	日本	米州	欧州・ アフリカ	アジア	計		
売上高							
外部顧客への売上高	37,630	15,791	13,200	21,659	88,281		88,281
セグメント間の内部 売上高又は振替高	14,034	160	68	1,550	15,814	15,814	
計	51,664	15,952	13,268	23,210	104,096	15,814	88,281
セグメント利益	7,772	2,252	893	3,427	14,345	376	13,968

(注)1 調整額は、セグメント間取引消去によるものです。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間に、「日本」セグメントにおいて、特別損失としてのれん償却額266百万円を計上しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、南アフリカに所在するSomta Tools (Pty) Ltdを連結の範囲に含めたことに伴い、報告セグメントを従来の「欧州」と合わせ、「欧州・アフリカ」として記載しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の名称で表示しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年12月1日 至平成28年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年12月1日 至平成29年8月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	91円70銭	103円28銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	8,448	9,315
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	8,448	9,315
普通株式の期中平均株式数(千株)	92,124	90,193
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	83円48銭	93円98銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	9,081	8,922
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

(投資有価証券の売却)

当社は、保有する投資有価証券の一部を平成29年9月1日及び平成29年9月13日に売却いたしました。これに伴い、平成29年11月期連結会計年度において、投資有価証券売却益1,427百万円を特別利益に計上する予定であります。

2 【その他】

第105期(平成28年12月1日から平成29年11月30日まで)中間配当について、平成29年7月12日開催の取締役会において、平成29年5月31日の株主名簿に記載された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	1,891百万円
1株当たりの金額	21円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成29年7月31日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年10月11日

オーエスジー株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鈴木 晴 久 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 谷 津 良 明 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 後 藤 泰 彦 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているオーエスジー株式会社の平成28年12月1日から平成29年11月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成29年6月1日から平成29年8月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成28年12月1日から平成29年8月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、オーエスジー株式会社及び連結子会社の平成29年8月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。